



2014年 Lab meeting にて

UCLA 名誉教授 Paul H. Guth 先生が、2017年7月4日呼吸不全により逝去された。享年 90 であった。

胃粘膜血流による粘膜防御研究の先駆者であり、Dr. Morton I. Grossman が West Los Angeles Veterans Affairs Medical Center 内に UCLA 関連施設として設立した消化性潰瘍研究のメッカ Center for Ulcer Research & Education (通称 CURE) で数々の研究成果を上げるとともに、世界中から集まった数多くの若手研究者を指導された。日本では微小循環研究者、潰瘍研究者にとって大変親しみのある著名な先生だった。

日本潰瘍学会・元理事 土屋雅春先生とは1歳違いの同世代だったこともあり、すぐに意気投合し、慶應義塾大学医学部消化器内科を中心に日本から留学生を Guth 教授に受け入れていただいた。写真(下)は1980年第4回国際実験潰瘍学会(左)、土屋先生が1995年にCUREを訪れた時のもの(右)である。いつもにこやかに、我々日本人留学生のつたない英語を辛抱強く、理解するまで耳を傾けてくださり、我々の出す結果をいつも信用して、予想外の実験結果についても一緒になって理由を考えていただいたことは、我々にとって大変ありがたく、励みになった。

心から Guth 先生のご冥福をお祈りいたしたい。



Guth 先生の功績は多くの日本人微小循環、潰瘍研究者の知るところであるが、ご自身の研究生生活を振り返った論文が J Gastroenterol & Hepatol に掲載されているので、ぜひお読みいただきたい(JGH 30 (Suppl. 1): 3-7, 2015)。

また Guth 先生の元へ日本人として初めて留学された佐藤宏先生が、鳥取において第 35 回日本潰瘍学会を主催された際、Guth 先生が佐藤先生の宛てた寄稿を元にした、師 Grossman 先生と CURE についてのことが Am J Physiol に掲載されているので、こちらもお読みいただきたい (AJP 294: G1109-G1113, 2008)。

CURE/UCLA, West LA VAMC
秋葉保忠 記